

全日遊連

「リカバリーサポート・ネットワーク」設立

パチンコ依存問題 相談機関、沖縄に電話相談窓口を開設

全日遊連は2月23日、「グランドアーク半蔵門」でパチンコ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」設立の発表会見を行った。全日遊連は平成15年、「ぱちんこ依存問題研究会」(米田義一座長)を設立以来、パチンコへの過度な“のめり込み”に注目し、対応を検討してきたが、依存問題の相談を受ける第三者機関の設立構想が提言され、今回の相談機関の開設に至った。

米田座長は、「来店客へのアンケート調査で依存が問題とされるユーザーは0.5%という数字だった。全日遊連として過度のめり込みや依存問題に対してどのような形で対応していくべきか、自己責任ではないかなどの声もあるなかで検討を重ねてきたが、最終的に業界でこの問題に取り組むべきということになった。一部にパチンコによる多重債務や幼児の放置事故等の問題もみられ、社会的な問題としても私たちに投げかけられている。依存症は病気であると認識する必要があり、身近で手軽な大衆娯楽を提供する産業として、社会的責任を果たし、消費者の問題解決の支援にあたっていきたい」と語った。

同ネットワークは沖縄県中頭郡西原町に事務所を設け、4月19日から相談窓口を開設する。パチンコ依存問題を取り巻く状況は、①問題の実



原田理事長

西村直之代表

態・全体像を把握する基礎的資料がない、②ギャンブル、ギャンブル依存症などの定義がない、③精神医学における治療戦略・福祉支援策は皆無に近い、④娯楽の提供者・消費者ともに依存についての正確な情報が乏しい、などの問題がある中で、同ネットワークでは、まず電話相談窓口を開設し、問題を集積して現状の把握に努め、集積された問題を基に、より適切な対応方法を検討していく。相談には当面、西村直之代表(精神科医)を含め4人の精神保健福祉士・ソーシャルワーカーら専門家があたる。相談員の養成システムの構築、問題解決支援者の養成・研修システムの整備などにも取り組んでいく。啓発活動では、ニュースレター等を関係機関に配信・広報していく。

集積された問題と対応の実践を経て、回復支援プログラムの作成も企図している。これによって、依存問題で遅れている「社会資源」の整備を側面からバックアップしていく方針だ。同ネットワークは、「必要な情報とサービスが、それらを必要とする人に届くよう橋渡しをすること」を基本コンセプトとし、「パチンコ依存に苦しんでいるユーザー、そし



リカバリーサポート・ネットワークの会見

てその周囲の人たちに、小さくとも回復につながる一歩になれる目標に活動する」としている。

会見で、リカバリーサポート・ネットワークの西村直之代表(精神科医、あらかきクリニック院長)は、「パチンコの依存でどのような問題やニーズあり、どのような援助が必要かについて、日本で調査している人はおらず、誰も分かっていない。そのためには、まず相談窓口を設けて、問題を集積し現状を把握ていきたい」と語った、また、西村氏は、依存症患者の正確なデータはないしながら、「例えば、アルコール依存では、治療が必要な人は最低でも80万人、薬物依存では約100万人いると言われている。イギリスでは宝くじの依存症発生率は0.1%と言われており、それから類推すると、日本でギャンブル依存は、100万人くらいはいるだろうが、その中でパチンコ依存は何人いるか分からない」としている。

ホームページは3月中旬開設予定。
<http://www.geocities.jp/rsnokinawa/index.html>